

令和6年度 京都大学一般選抜 出題意図等

数 学 (理系)

- ・「出題意図等」とは、出題意図または標準的な解答例のことです。
- ・入学試験問題の満点や配点については、試験問題に記載のとおりです。
- ・各学部における個別学力検査の配点については、一般選抜学生募集要項に記載のとおりです。
- ・標準的な解答例については、ここに示す表記に限るものではありません。
- ・「出題意図等」についての質問および問い合わせには対応いたしません。

令和6年度京都大学一般選抜 出題意図等 数学(理系)

京都大学の個別学力検査「数学(理系)」では、入学者選抜要項で述べた出題範囲に基づき、出題方針で述べたような数学の学力を測る出題をしています。総合的な学力を評価するために、論述形式の解答になる出題を主体にします。解答における論理性を重要視し、いわゆる求値問題においても、計算力だけでなく答えに至る論理性も評価します。

このような考えのもと、令和6年度の各問題は、以下のような観点から出題しています。

理系1

(1)は、数学Aで学習する「場合の数と確率」の問題である。確率についての諸性質を理解し、適切に使用し計算できるか。(2)ではさらに、数列の極限についての計算力と論理性。

理系2

「複素数平面」の問題である。複素数平面上の図形と複素数の関わりを理解。

理系3

ねじれの位置に関する題意を必要十分条件で適切に表現し、論証して結論を導けるか。それを説明できるか。

理系4

漸化式で与えられた数列について、題意に基づき必要十分条件を適切に論じ説明できるか。

理系5

(1)では、与えられた領域の面積を、数学IIIで学習する定積分を使って表し、その計算が正しく実行できるか。(2)では、関数の極限に関わる計算力と論理性。

理系6

与えられた条件を指数関数、対数関数を使って適切に表現できるか、その上で、極限を求める計算力と論理性、それを説明できるか。